

認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 148 号 (R5.12.10)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 12月となり、ようやく冬らしい気温になってきましたね。あちこちでクリスマスツリーの点灯式や歳末助け合いの呼びかけが行われています。

いつもの師走の風景が戻ってきました。

・さて、ORMZ ニュース第 148 号では、ヘルスポスト建設が完了したことや巡回診療活動の報告、以前お世話になった櫻井さんから寄せられたザンビア訪問記などとともに、今後の活動方針等について重要なお知らせがあります。

・皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

事務局からの重要なお知らせ

・ザンビアの辺地医療を支援する会は 2012 年 7 月 7 日に発足、9 月 20 日に法人登記し、山元先生のザンビアでの活動支援を、皆様の暖かい、そして心強いご協力により行ってきました。

・これまでに実施した巡回診療では、約 45,000 人の診療を行い、さらに 20 基を超える井戸の掘削や、コミュニティヘルスワーカーの育成と再研修、住民啓発、マラリア蚊殺虫剤噴霧などを行いました。

・そして、当初からの念願であった、ルアノ地区のヘルスポスト建設も行うことが出来ました。

・これらは、ひとえに多くの皆様のご支援の賜であったと心から感謝申し上げます。

・一方、この間、巡回診療に出向いている地区の近隣にヘルスポストが建設されました。

・リタタ地区では近隣のヘルスポストが稼働し始めたことから、12 月末をもって巡回診療は終了することを地元の人や郡保健局にお伝えしています。サンダラ地区もルアノのヘルスポストが稼働を始めれば、巡回診療の必要性はなくなります。

・また役員も山元先生自身も、歳を重ねてきました。後任となる方を見つけることもできませんでした。

・以上のことなどから、**今後の方針について来年 2 月の総会で話し合う**こととしました。

・また、巡回診療などの活動は来年もまだ継続しますが、その費用はこれまでの賛助会費・ご寄附で賄える状況であることから、**方針が決まるまで、賛助会費・ご寄附については辞退（寄附は不要）**させていただきます。

どうぞご理解くださいますようお願いいたします。皆様のこれまでのご支援に、感謝申し上げます。

現地の状況、事務所だより（山本ひとみ）

【ヘルスポスト設置の進捗状況】

ヘルスポスト建設作業が完了しました！

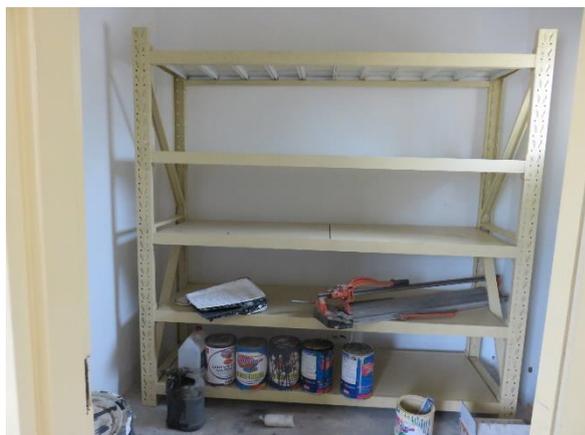
ヘルスポスト、スタッフハウス、トイレ、焼却場のすべての鍵を建設業者から預かりました。

今後は、ヘルスポストに必要な資機材の調達をしていきます。また、公式に政府に施設を引き渡すまで、コミュニティの人達と管理などについて話し合いをする予定です。ヘルスポスト周辺の囲いをどうするか、ソーラーポンプの管理（水タンクが空になったら、ポンプスイッチをオンにし、タンク

が満タンになったらスイッチを切る)は誰が責任を持って行うか、活動に使用してきた仮の建物の取り壊しなど、地元での作業はまだまだ続きます。

完成したヘルスポスト本体 (右)

(下)薬品保管庫



(右) ソーラーポンプも蓋つきの囲いで守られています。

ソーラーポンプ
before



after



(右) 水道場の下もコンクリートで固められ、足元土ドロドロが避けられます。

蛇口
before



after



(下)患者さん用のトイレ



(下)焼却場には子どもが入らないよう囲いがあります。



引き渡された全ての鍵



【巡回診療】

11月8日 サンダラ

・診療数 87 名、マラリア陽性数 0 名中 0 名 妊産婦検診 17 名 道中の診察 3 名

・主な訴え、疾患等：気道感染症、胃腸炎、腰痛などからだの痛み、結膜炎など目の疾患

・重症例：なし ・搬送例：なし

・他の医療機関への紹介：1(47歳の女性。下記に記述)

・「22日からの Child Week 間にサンダラに行くため」とチペンビルーラルヘルスセンターからの同行者がなく、5歳未満小児の予防接種は行われなかった。



* 予防接種のこと、新しい井戸のことを説明

・11か月の女兒、体重 3.5Kg、身長 65cm、高カロリー高蛋白サプリメント (HEPS) 1袋を渡す。咳と下痢があると母親が連れてきていて、身長測定した時には「成長は順調？」と聞くなど、女兒の面倒見るのを怠っている様子はない。女兒の成長が平均より遅いだけ、のようだが、今後もフォローができたらと思う。

・47歳の女性。妊娠したと思って妊産婦検診に来たが、妊娠はしておらず、おなかが大きい原因は別にあり。チョングエ病院に搬送することも提案したが、ご主人が不在で黙って家を離れることはできず、チョングエ滞在時の準備も必要なため、後日病院に行くと言う。2日分の薬を渡し、交通費支援と紹介状を渡した。

11月15日 リテタ

・診療数 109 名、マラリア陽性数 5 名中 0 名、 妊産婦検診 4 名、 道中の診察 0 名

・主な訴え、疾患等：気道感染症、胃腸炎、腰痛などからだの痛み、結膜炎など目の疾患、赤痢疑い、消化器疾患

・重症例：なし ・他の医療機関への紹介：なし

・急用でコミュニティヘルスアシスタント (CHA) が現地不在だったため、予防接種は行われず。子供用の体重計は、リテタヘルスポストにあり、コミュニティヘルスワーカー (CHWs) が預かってこず、体重測定もできず。

・体重が少なく 10 月 HEPS を渡した 2 名について、体重計がなく、正確な体重は測定できなかったが、2 名とも際立った効果は見られず、引き続き HEPS を支援。加えて、4 人 HEPS を渡したい (渡したほうが良い) と判断された子がいたが、HEPS の数が不足して渡せなかった。

・村長、チェアマン、CHWs 3 人、住民保健委員会 (NHCs) 1 人とミーティングし、12 月で活動を止めることを伝えた。村長は「保健施設はできたが、ORMZ が準備してくれている薬の種類や量は、施設より豊富で、コミュニティは助かっている。これからも引き続き来てほしい。」と話されたが、保健施設より遠く離れたコミュニティの支援をしたいことを伝え、理解してもらった。CHWs には、引き続き保健施設を拠点に活動を続けるようお願いした。



* この日は太陽ガラガラ、軒下に集まる人々

・CHW の一人の長男が錯乱状態になったため、ルサカの病院に連れて行きたいとのこと。すでに紹介状は持っており、チャイナマまで送った。

11月22日 ニャンカンガ

・診療数 108 名、マラリア陽性数 11 名中 4 名、 妊産婦検診 12 名、 道中の診察 0 名

- ・主な訴え、疾患等：気道感染症、胃腸炎、消化器疾患、腰痛などからだの痛み、皮膚疾患
- ・重症例：なし　　・他の医療機関への紹介：なし
- ・11月28日こどもの健康習慣（Child Health Week）で予防接種を行う予定とのことで、巡回診療時は行わなかった。予防接種は28日火曜日の予定とアナウンスされた。
- ・10分程度の通り雨があり、一時たくさんの人が軒下につめた。
- ・ファミリープランニングで来た女性。血圧が高く希望のファミリープランニングは受けられなかった。
- ・10代で妊娠の子が、母親と一緒に妊産婦検診に来ていた。
- ・ムワプラヘルスポストのスタッフが同行しなかったので、帰路はチテマレサルートで戻った。



＊（写真）通り雨の時の様子

久しぶりのザンビア訪問（櫻井睦子様より）

ルアノの蛇口から水が出た！ ～久しぶりに訪ねた巡回診療の現場と完成間近のヘルスポスト～
 <リテタ巡回診療（2023年11月15日）>

以前よりだいぶ良くなったとはいえ、片道4時間の道中のほとんどは舗装のないガタガタ道。埃にまみれて揺られ続けるのは、ザンビアを長く離れて東京に暮らす私にはかなりの難行苦行だ。それでも久しぶりのザンビアの何気ない日常の風景、強い日差しに輝く樹々や一本道が地平線まで続く雄大な景色に心を奪われて、予想したほど長い道中には感じられない。

リテタでの診療は地区のヘッドマンの敷地内で行われる。到着すると50、60人が木陰で診療開始を待っていた。赤ちゃんを背負った若い母親と子どもが多い。人の集まる診療日は皆おしゃれをして来るが、リテタの若い女性は手の込んだ編み込みの髪型が多く、チテング（女性たちが腰に巻いたり赤ちゃんをおぶったりするのに使う伝統の布）の原色の色彩と相まって美しくとってもおしゃれだ。子どもたちの笑顔も眩しく輝いている。



木陰の受付で日付、年齢、体温、体重、血圧（20歳以上のみ）を測り、カルテ代わりにノートに記入してもらい、それぞれ丸い草ぶきの診察室、妊産婦検診、ファミリープランニングへ向かい、最後に薬をもらって帰っていく。マラリア、HIVエイズ、梅毒、妊娠、血糖値については必要に応じて検査ができるようになっている。

読み書きのできない人もいて、受付で自分の年齢がわからず毎回違う年齢を申告する人、カルテでは毎回若返っていく人など、日本では考えられない珍事も起こるが、診療自体はスムーズに運び、この日の109人の診療は4時間ほどで終了した。幸いなことに今回は緊急に病院に搬送するようなケースはなかったが、公共交通機関が無いので重傷者を診療が終わったORMZの車両で病院に搬送したり、病院を紹介することもある。



スタッフも慣れてきているせいか、以前よりも診療は全般に整然とスムーズに行われているようにみえる。厳しい環境の中、長年巡回診療に協力してくれている村のボランティアの人たちとザンビア人医療スタ

ップには本当に頭が下がる。

<ルアノ ヘルスポスト建設インスペクション (2023年11月17日) >

ガタガタと揺さぶられる道を再び片道4時間、2011年に最初に診療を開始したルアノに近づくと、少しでも車が通りやすくなるようにと村人が長年にわたって手作業で掘り出してくれた大小の石が数えきれないほど道路脇に積まれている。そのお陰で十数年前に比べると車を傷めつける大きな石だらけ川底のようだった道はだいぶ平坦になり、村人たちの地道な苦勞がしのばれる。しかし、そんな膨大な労力を費やして道を補修してくれても、今なお雨が降れば道が水没してしまい四輪駆動車でも通れない箇所がいくつもあり、雨季にはやむなく巡回診療を中止せざるを得ないのは本当に残念だ。

この日は巡回診療ではなく建設を終わろうとしているヘルスポストの建築状況インスペクションに同行してルアノに来た。インスペクションではいくつかの改善点が指摘され、もうしばらく工事が続くことになったが、診察室・妊産婦検診室・分娩室のある立派なヘルスポストに加えて、スタッフハウス、トイレ、手洗い場、ごみ焼却場が完成する日は近い。

2011年の初めての診療の時には全く何もなかったルアノだが、診療の日は人が集まることから市(いち)が立つようになり、コミュニティスクールができ、井戸が掘られて安全な飲み水が確保され、今や立派なヘルスポストと付属の施設が完成しつつあり、ヘルスポスト建設のために掘られた2本目の井戸の水は、ソーラーポンプで高架タンクに汲み上げられ手洗い場の蛇口から出てくる。朽ちかけた小屋と赤土の埃が舞うだけの広場、家畜の糞の落ちている小さな流れで水を汲んでいた当時のルアノの人々の暮らしを記憶している私には、真新しい手洗い場の蛇口から水が出ている光景が奇跡のように思え胸が熱くなった。

巡回診療によってリタモルアノも人々の健康状態は向上しているが、その他の生活環境は十数年前と基本的に変わっていないように見受けられる。首都ルサカでも中心部にはどんどん新しいビルが建ち、きれいなショッピングモールやカフェが繁盛している。中流層も増えているのだろうが、人口の大多数が住むコンパウンドでは何十年も上下水道など衛生環境が整わないまま変わっておらず、貧富の差はますます大きくなっているように見える。衛生環境、健康状態がますます向上し、ザンビアの美しい青空の下で子ども達の輝く笑顔がこの先も守られるように祈るばかりである。

山元先生、日高先生、忙しい中で対応してくれた山本ひとみさん、暖かく迎えてくれたローカルスタッフ、古くからのザンビアの友人たち、皆様のお陰で久しぶりのザンビア滞在は素晴らしいものになりました。心からお礼申し上げます。Zikomo kwambiri!!!

櫻井睦子



賛助会費・ご寄附の納入は辞退します (不要となりました)

- ・事務局からのお知らせに記載しましたように、今後の方針が決まるまで、賛助会費、ご寄附は辞退します (不要となりました) ので、ご理解くださいますようお願いいたします。
- ・これまでのご支援に心から感謝申し上げます。

多くの皆様のご支援に心から感謝申し上げます。